

巻頭言



人間看護学部 学部長

あま さ きょう こ
甘 佐 京 子

2004年3月に本学部学術雑誌として創刊された『人間看護学研究』も、第14号の発刊を迎えることとなった。初代看護学部長である筒井裕子教授は、本誌の創刊に際し、「開かれた学部を目指し、本誌の充実に努めたい」と明言された。その言葉どおり、発刊当初は、学部の教員による研究論文が中心であったが、やがて、地域交流看護実践研究センターによる共同研究事業の推進により、臨床と大学との共同研究の取り組みが論文として加わった。また、2007年には大学院修士課程が開設され、多くの院生が研究成果を本誌に投稿するようになった。修士論文のみならず、在学中から研究課題に関連した文献レビュー等が数多く投稿され本誌の紙面はより賑やかなものとなっている。創刊から12年の時を経て、まさに本誌が開かれた学術雑誌として成長してきたことを実感している。学部の学術雑誌という特性もあり、まだ若い発展途上にある研究も少なくない。しかし、別の側面から見れば、これから大きく開花していく知の宝庫ともいえる。どうかここでの成果発表をステップにして、より大きな成果を他の学術誌でも公表されることを期待している。

今後も本誌が、県内において看護学の情報発信の拠点となり、より充実した学術雑誌に発展するよう心より祈念する。